



報道機関 各位

記者発表資料

令和元年10月25日(金)

問い合わせ先：環境対策課

課長：黒沢

担当：田中、熊切

電話：829-1331

内線：3139

「公民学連携によるマイクロプラスチック問題への取組」を開始しました

さいたま市は、世界共通の喫緊の課題である海洋プラスチックごみ問題に鑑み、プラスチック製品の抑制やプラスチックごみの削減に取り組むため、公民学連携による市内河川におけるマイクロプラスチックの実態を把握するための調査研究等を開始しました。

1 目的

海洋プラスチックごみ問題をめぐっては、国内における発生由来は内陸部から河川を経て海洋に流出するマイクロプラスチックの寄与が少なくないと言われております。さいたま市内を流れる主要河川はすべて東京湾へ流下しており、人口130万人を擁する首都圏の中核都市としてこの問題に積極的に取り組むため、市内河川におけるマイクロプラスチックの実態を把握するための調査研究を実施するものです。

こうした新たな課題に対しては、行政だけでなく専門的・技術的に経験豊富な大学研究者や分析事業者のご協力をいただき、公民学が相互に連携協力して取り組むことで多角的な視点から課題の解決策を検討します。

2 調査研究の内容

別紙参照

3 契約締結者

埼玉大学、分析事業者（4社）、さいたま市

4 その他

本調査研究と連動した取組として、市と飲料等事業者が連携してペットボトルやレジ袋等の使用抑制、プラスチックごみの削減に向けた方策の検討及び周知・啓発を行うとともに、市・市民・企業が一体となって河川清掃やプラスチック資源回収等の更なる推進に取り組む予定です。

詳しくは、別紙をご参照ください。

「公民学連携によるマイクロプラスチック問題への取組」について

【取組概要】

現在展開しているマイボトル・マイバッグ運動、ごみゼロキャンペーン市民清掃活動に加え、さいたま市内の河川におけるマイクロプラスチックの実態把握と対策の検討を、公民学が連携して取り組み、問題解決を図る。

【主な取組】

フェーズ1 河川マイクロプラ調査・分析

埼玉大学、分析事業者、市の3者の連携により、市内の主要河川におけるマイクロプラスチックの実態を把握するための調査研究を行う。

フェーズ2 プラごみ削減・リサイクル推進策等の検討

フェーズ1で得られた調査研究の結果をもとに、飲料等事業者などとの連携により、マイクロプラスチックの発生要因の分析と、効果的なプラスチックごみの発生抑制・削減のための施策の検討を行う。

フェーズ3 河川清掃・プラスチック資源回収等の協働実施・啓発

市民や事業者に対し、海洋プラスチックごみ問題と市内の河川におけるプラスチックごみの削減を啓発するため、市民団体や企業等に参加を呼びかけ、河川清掃やプラスチック資源回収等の更なる推進に取り組む。

(一社)埼玉県環境検査研究協会

(株)環境管理センター

内藤環境管理(株)

三菱マテリアルテクノ(株)

埼玉大学大学院理工学研究科

三小田助教

